

めぐみイエス・キリスト教会

2018年4月29日(日) 第五主日礼拝
週報「通算第403号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈祷会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年4月29日(第五主日礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈り】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」 p. 402
- 【交読文】 No.54 ヨハネの福音書第14章 p. 922
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2 「あなたと共にいつまでも」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書14章12節～14節
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《主イエス様の約束》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless you」 p. 294
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

●ポイント1「私を行なうわざを行なう」とは？

※使徒の働き5章15節～16節「シモン・ペテロを通して」(新約p.216上段)

5:15 ついに、人々は病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせ、ペテロが通りかかるときには、せめてその影でも、だれかにかかるようにするほどになった。

5:16 また、エルサレムの付近の町から、大ぜいの人が、病人や、汚れた霊に苦しめられている人などを連れて集まって来たが、その全部がいやされた。

※第 I コリント2章4節 「使徒パウロの証しから」(新約p.292上段)

2:4 そして、私の言葉と私の宣教とは、説得力のある知恵の言葉によって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。

●ポイント2 「またそれよりもさらに大きなわざを行なう」とは？

※使徒の働き2章38節～41節「この曲がった時代から」(新約p.211下段)

●ポイント3 「私の名によって何かを求めるなら、私はそれをする」とは？

※使徒の働き4章5節～12節 「誰に名によって」(新約p.213下段)

4:5 翌日、民の指導者、長老、学者たちは、エルサレムに集まった。

4:6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな出席した。

4:7 彼らは使徒たちを真中に立たせて、「あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか。」と尋問しだした。

4:8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。

4:9 私たちがきょう取り調べられているのが、病人に行なった良いわざについてであり、その人が何によっていやされたか、ということのためであるなら、

4:10 皆さんも、またイスラエルのすべての人々も、よく知ってください。この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。

4:11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった。』というのはこの方のことです。

4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」

◎先週のメッセージの概要【すでに父を見たのですとは？】

《イエス様は、これからゲッセネマの園へ行こうとしています。あとイエス様に残された時間は、多くとも12時間くらいではなかったでしょうか。なぜならイエス様は、その日の午前9時に十字架に掛けられるのです。そして、その6時間後の午後3時には、死んで行かれます。この残された時間、しかも最後の晩餐からゲッセマネの園に向かわれる道程において、遺言とも取れる、非常に大切な真理と奥義を、愛する弟子たちに、教え、残して行かれるのです。

ピリポは質問します。

「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」

「ピリポ。こんなに長い間あなたがたと一緒にいるのに、あなたは私を知らなかったのですか。私を見た者は、父を見たのです。」

イエス様は、かつてパリサイ人や律法学者にも、このように言われました。「私を信じる者は、私ではなく、私を遣わした方を信じるのです。また、私を見る者は、私を遣わした方を見るのです。」

これは、ご自身が、神様であることを、明確に言われているのです。また、「私は、自分から話したのではありません。私を遣わした父ご自身が、私が何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。私は、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。それゆえ、私が話していることは、父が私に言われたとおりを、そのままに話しているのです。」とも、言われました。

イエス様が言われた言葉は、まさしく真に「神の言葉」なのです。そして、「私が父におり、父が私におられると私が言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。」と言われました。ヤーヴェなる創造主なる神様は、二千年ほど前に、イエス・キリストを通して、まことの神様とはどのようなお方であるかを示されたのです。イエス様の命令は、ただ一つ。それは、「信じなさい。」、「私を信じなさい。」と言うことだけなのです。信じましょう。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、5月6日(日)午前10時から行ないます。また聖書研究・祈祷会は、5月2日(水)午後6時15分です。
2. 鈴木師は、5月1日(火)下妻朝祷会の礼拝奏楽と特別賛美伴奏を、そして5月2日(水)東京プレイヤーセンターお昼の礼拝メッセージを担当します。